

[HOME](#) > [法政大学について](#) > [広報室](#) > [法政フォトジャーナル](#) > 詳細

法政フォトジャーナル

2008.10.01

化学を楽しむ実験教室を開催

[一覧へ](#)

・撮影場所／多摩キャンパス

多摩地域の子どもたちに科学の楽しさを知ってもらうことを目的とした「実験教室(“進化型”実験教材をつかって“化学”を楽しむ)」が、9月6日(土)、20日(土)の両日、多摩キャンパスの研究・実験棟の化学実験教室で実施されました。

この実験教室は科学技術振興機構(JST)の地域科学技術理解増進活動推進事業「地域活動支援」および化学オリンピック日本委員会の支援で実施されたものです。イベント参加者募集にあたっては、町田市や八王子市の教育委員会などの積極的な協力も得ました。運営・指導には経済学部化学担当の山崎友紀教授と、生物担当の岡部雅史教授があたり、1日目、2日目ともに親子など40組を超える参加者でにぎわいました。また経済学部の学生たちも実験補助として、しっかりとサポート役を務めました。

幼稚園(保育園)年長から小学校6年生までの子どもたちを対象としたこの実験教室の特徴は、山崎教授らによって新しく開発された“進化型”教材を使って、楽しく分かりやすく化学実験を行う点です。

1日目の9月6日には、山崎教授らの開発した実験キットを用い「入浴剤づくり」「カラフル炎!(固形燃料)づくり」を行いました。「入浴剤づくり」では、子どもたちは香りつきの固形入浴剤を作り、お土産として持って帰り、自宅のお風呂で楽しみました。また「カラフル炎!づくり」では、酢酸カルシウム水溶液のゲル化現象を応用して固形燃料を作り、さまざまな炎色反応を体験し、花火の原理を学びました。

2日目の9月20日には「プラバンアクセサリを作ろう」「プラスチックのリサイクルを体験しよう」という2テーマで実験を行いました。「プラバンアクセサリを作ろう」では、光るプラバンを含め3種類のカラフルなポリスチレンシートを使った楽しいオリジナルのアクセサリ工作を通じてプラスチックの性質を理解しました。オーブントースターを使うと固まるプラバンの加工作業に、子どもたちは夢中になっていました。また、「プラスチックのリサイクルを体験しよう」でも“進化型”教材を用いて、プラスチックの材料やリサイクルについてゲームなどで遊びながら学びました。



各回約80人が参加した実験教室の様子



熱心に質問をする子どもたち



プラバンを加工。光るプラバンでキーホルダーなどを作成



カードやパズルなど進化型教材でプラスチックのリサイクルを学びました



山崎教授らにより開発された「進化型教材」の内容物



子どもたちにも分かりやすいマニュアル付きです

Copyright (c) Hosei University. All rights reserved.